

知の音

大学紛争においてある先生が学生に対して言い放った「専門バカじゃないやつはただのバカだ」という言葉は有名であるが、この言葉は、終わりなと「専門」の奥深さを主張しているとも思われる。

どのような分野においても、誠をもって追求するならば、必ず知の統合が必要となるはずだ。理屈抜きで涙が自然に出てくるような音は、知の結晶たる「知の音」である。そもそも、音楽自体が一般教養の一つであり、知の音は一般教養を統合したものである。音には音階や周波数という概念があるが、これは数学である。音楽家には理論家が多い。作曲家の意図を忠実に表現するには、曲の背景、すなわち歴史の知識が必要不可欠である。時代により、古典派、ロマン派、印象派といった分類になる。作曲家個人の人生に関する知識も必須である。ピアノを例にすると、繊細かつ、ダイナミックな演奏を実現するには、科学的奏法が必要となる。科学的でなければ再現可能性が無い。それを助ける理論の一つに生理学がある。例えば、筋肉のコントロールの為である。誠をもって音を追求したならば、それは知の音である。もはや専門バカの領域を脱し、おそらく、おそくあらゆる分野で通用する知と実行力を有している。

江幡 淳